

【巻頭言】

初めての学友会理事

松井 正幸 (55 回生)

昨年3月頃、西谷源展先生(44回生)からお電話をいただき「学友会の理事をしてくださいねか？」と依頼がありました。私は、今まで【京都医療科学大学学友だより】を毎回楽しみにしておりましたが、学友会に参加したこともなく、まさかお声がかかるとは、思いませんでした。私は、このようなことが苦手でお断りしようと思っておりましたが、西谷先生からの指名により引き受けることになりました。

初めて学友会理事会に参加させていただいた時、不安な気持ちでJR嵯峨野線に乗り、大学に向かいました。大学に着くと西谷先生、笠井俊文先生(49回生)から声をかけていただき緊張していた気持ちが少しやわらぎました。その後玉田彰学友会会長(53回生)はじめ理事の皆様は温かく迎えていただきました。また、自己紹介もさせていただきながら会議が終了したことを覚えています。

数年前の話になりますが、後輩との雑談のなかで“京都市内のイメージで京都医療科学大学に入学したのに田舎の大学やし、楽しくなかった。”と聞きました。その時は、残念な気持ちでいっぱいでした。その後、その後輩が技術学会・技師会に入り、先輩方の活躍を聞いて驚き、京都医療科学大学の伝統を再認識し、改めて本学の良さに気づいてくれたようです。多くの先輩方が医療界で活躍されているからこそ、自分達も先輩から吸収して、成長していけると思います。学友会のつながりに感謝し、大切にしたいと思います。またその一員である事が幸せでもあります。

卒業後の私は、東海道新幹線乗車時に見える済生会滋賀県病院(滋賀県栗東市)に勤務しています。西谷先生、堀井均先生(55回生)には、当院の就職募集時にも大変お世話になっており、京都医療科学大学卒業生が現在8人(20人中)在籍して活躍しております。これも先生方、諸先輩方にお力添えをいただいたおかげだと感謝しております。

当院は、滋賀県の湖南地域に位置し大阪・京都へのベッドタウンです。また名神インターチェンジと国道1号線・国道8号線の分岐点で交通の要所に位置しています。当時から急性期疾患が多く、救急病院として365日・24時間体制で直と、

オンコールで対応してきました。現在では、3次救命センターとなりドクターカー・ドクターヘリを備え、“救急車(消防)を断らない”体制で努力しています。改めて京都医療技術専門学校を卒業し、生涯打ち込める職業につけた事を誇りに思います。また、学校の先生方、学友会の先輩方、職場のスタッフに感謝申し上げます。残り2年で定年退職となりますが、職場を離れる寂しさと打ち込んできた満足感で一杯です。とはいえ今後、微力ではありますが、少しでも学友会の力になればと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

以上

